

再生！野幌の森林

NP0法人シーズネット 豊友会 代表 長尾 隆
石狩地域森林環境保全ふれあいセンター 佐藤 充

1 課題を取り上げた背景

野幌森林公園は、札幌市、江別市、北広島市周辺に広がる都市近郊林であり、面積は約2,000ha、そのうち国有林野が約1,600haと全体の78%を占めています。林相はトドマツ等の亜寒帯性の針葉樹とシナノキ、エゾイタヤ等の温帯性の落葉広葉樹が混生するなど、その有する規模と自然性は高く評価され、また、年間30万人以上の利用者に親しまれています。このような野幌の森林において、平成16年9月の台風18号による本林の風倒被害面積は約71haに及びました。

この被害を背景に、当森林管理局は本林の被害箇所の森林再生と本林の魅力を一層高めながら開かれた「国民の森林」の具現化に向け、都市近郊林における市民参加型の森林づくりのモデルの構築を目的とした「野幌プロジェクト」を策定しました。本プロジェクトの取組みの1つとして、NPO等ボランティア団体、企業、一般市民等、幅広い参加ニーズに対応した市民参加の森林づくりに取組みました。

2 市民参加の方法

被害箇所の森林再生に当たり市民参加の森林づくりを、次の3点で取組みを実施することとし、17年5月より本格的にスタートしました。

(1) 団体型森林づくり

ボランティア団体等と森林管理局が森林づくりの協定を締結し、植樹、保育等について当該団体等が一定期間取組む。

(2) みんなで森林づくりフィールド

個人、団体等広く市民を対象に、植栽、保育等について国有林が主導して取組む。

(3) 野幌森林づくり塾

広く市民を対象（個人、家族参加が中心）に、植栽、保育、道具の取扱い等、森林づくりに関する知識の習得と実体験をしながら、森林と人とのかわりについて理解の醸成等を目的に開講。

団体型森林づくりに公募した12の参加団体の中のNP0法人シーズネット豊友会の森林づくり活動について報告します。

3 森林づくりの活動

(1) シーズネット豊友会の紹介

2001年に設立したシーズネットは高齢者の主体的な生き方を目指すためのグループで、具体的活動は講演会・講習会・研究会等で、特に仲間作りも重要な位置を占めており、歩こう会・合唱団等があります。その中の仲間作りで「心豊かなもの集い」を目的とした豊友会が今回の団体型森林づくりを行っています。

(2) 森林づくりへ参加した動機

平成17年5月に、野幌プロジェクト市民参加の森林再生の3つの活動のうち、「みんなで森林づくり」に参加しました。

この森林再生の活動に参加した人の声が団体型森林づくりへと後押しをしました。

(3) 活動内容

石狩森林管理署と森林づくり整備の協定を平成17年9月13日に協定を締結し、現在2回目の協定を平成22年4月に締結しています。

活動地は野幌の森林の中央に位置するところで、面積0.20haに植栽を行いました。

苗木の植栽は協定翌年の平成18年に実行し、200本を植栽しました。（植栽樹種トドマツ・ハルニレ・ミズナラ・エゾヤマザクラ）

平成19年から下刈りの保育作業を行っています。

植栽地に一部、野ねずみ・野ウサギの被害が発生し、枯れた植栽木の捕植作業を行いました。

(4) 森林づくりで感じたこと

「僅か0.2haの植林地ですが、私たちシニアにとって夢と希望の森です。この活動地をシーズネットの森と呼んでいます。こうして愛する森で楽しみと喜びにすることができました。」

4 まとめ

市民参加型の森林づくりへ参加した皆さんが、この活動を通じて、野幌の森林と都市生活者の新しい接点となり、森林と人とのかわり・野幌の森林づくりの体験と知識の習得を契機に森林の魅力の発見や野幌の森林の新たなファンや良き理解者を拡げていくことが重要だと思います。

来年度、新たな協定の更新を結ぶ団体に対して保育等の技術的指導等種々の課題を克服しながら、市民参加の森林づくりをより有意義なものにしていくとともに、「国民の森林」として国有林の存在感を一層高めていくことに寄与できるよう、努めていきたいと考えています。